よきおとずれ
CATHOLIC NAGASAKI MONTHLY
カトリック長崎大司教区報

第949号

発行所　カトリック長崎大司教区 広報委員会
発行人　中田輝次
〒852-8113 長崎市上野町10-34
カトリックセンター内
TEL 095(843)3869　FAX 095(843)3417
郵便振替番号 01880-5-2699
カトリック長崎大司教区ホームページ
http://www.nagasaki.catholic.jp
協力　株式会社 藤木博英社
〒850-0852 長崎市万屋町5-13
TEL 095(821)2146　FAX 095(821)2148

みことばとともに

あなたがたには世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている。

ヨハネ16章33節

3月・教皇さまの意向のために祈りましょう

① 一般の意向：赦しの重要性
② 宣教の意向：福音のために迫害される人々
③ 日本教会の意向：結核の治療の推進

選任式・叙階式
あなたがたの父は、あなたがたに必要なものをご存じである

司祭助祭叙階式

2月11日午後2時から、祝日の穏やかな天気の中、髙見三明大司教主司式のもと、浦上司教座聖堂で司祭助祭叙階式とミサが行われた。アジシのフランシスコ野濱達也師（中町）とミカエル山添克明師（早岐・川棚）が司祭に、使徒トマ岩下裕志師（福江）が助祭に叙階された。100人を超す司祭、修道者、信徒、かかわりの深い人々など合わせて約1500人の参列者で聖堂は埋め尽くされた。

叙階式前の説教

叙階式に先立って早岐教会の山本一郎神父は、司祭に叙階される受階者の出身教会のこれまでの歩みから説教を始めた。「4年前に川棚教会は主任司祭を病気で亡くしてから早岐教会の巡回教会になりました。世帯数も少ない教会です。今後私たちの教会は、主任司祭をいただくことはできないのでしょうかと、切実な声を聞きました。

それでも大司教さまに陳情に行くようなことはせず、川棚教会のために祈ることを選びました。毎年どこかの教会から司祭が誕生し、小教区に派遣されていきます。私たちの教会から、1人の新司祭を長崎教区に送り出すことができれば、何かが変わるのではないか。川棚教会のすべての信者が新司祭のために祈ってきました。

司祭たちは体力的にも、能力的にも、弱さを持っています。ですから、今日叙階される司祭だけでなく、私たち司祭団すべてを支えてください。信徒の皆さまの理解と協力がなければ司祭は司牧活動を果たしていくことはできません。叙階の秘跡の恵みを受けるのは受階者本人です。しかし、叙階の恵みが実をもたらすのはじつは信徒ではないでしょうか」。

「あなたがたの父は、願う前から、あなたがたに必要なものをご存じなのだ」（マタイ6・8）。神の民全員に必要不可欠な司祭職の恵みを、神の民全員の理解と願いと祈りで神に求めようとの、強い決意が伝わってきた。

新司祭と新助祭。左から野濱師、山添師、岩下師

大司教からの祝辞

髙見大司教は野濱新司祭、山添新司祭、岩下新助祭と参列者を前に喜びの気持ちを述べた。「召命は神さまからの恵みではありますが、ご両親をはじめ、兄弟、友人、数えることのできないほど多くの人の協力があって成り立ちます。新司祭のうち1人は、長崎コレジオの第1期生です。養成に携わった小神学院、長崎コレジオ、サン・スルピス大神学院の担当者に感謝申し上げます。

2人の新司祭と1人の新助祭は、これからさらに平たんではない道を歩むことになると思います。どうぞ奉仕の精神で、キリストに信頼を置いて司祭の道を歩んでください。先輩神父さま方のご指導をよろしくお願いします」。叙階の秘跡を受けた3人は大きな拍手で参列したすべての人に迎えられた。

叙階式を終えて

叙階式とミサを終えると、玄関ではまず先輩司祭たちから新司祭と新助祭が歓迎の拍手を受けた。髙見大司教としっかり握手を交わし、それから新司祭の祝福を受けようと修道者、信徒が駆け寄った。新司祭を神さまにおささげした2組の両親は胸がいっぱいになり、「この日をようやく迎えました」「これからのほうが心配。体に気を付けて」の声をなんとか聞き出すことができた。家族もこれから一司祭の家族として自分自身をささげていく。

奉仕者の選任式

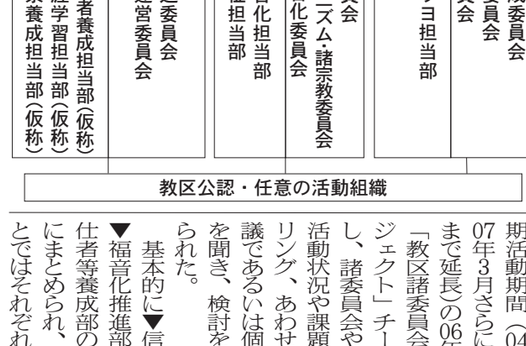
また2月8日には同じく浦上教会で朗読奉仕者・祭壇奉仕者選任式が行われ、大水満神学生（曽根・大水）が朗読奉仕者に、中尾直通神学生（三井楽）が祭壇奉仕者に選任された。当日は髙見大司教主司式で30人の司祭と、平日にもかかわらず多くの修道者・信徒が参加した。

教区諸委員会再編
08年度から新体制

長崎教区は2001年4月、時のしるしにかなった宣教体制をと11の委員会を編成し活動を続けてきたが、よりよい体制の必要から、このほど08年度から新体制で出発することとなった。

新体制は、これまでの11委員会（宣教、生涯養成、信仰教育、典礼、財務、広報、家庭、召命、青少年、福祉、エキュメニズム・諸宗教）の第2期活動期間（04年4月～07年3月さらに08年3月まで延長）の06年秋から、「教区諸委員会再編プロジェクト」チームが編成し、諸委員会や諸機関に活動状況や課題などヒアリング、あわせて司祭会議であるいは個別に意見を聞き、検討を重ねつくられた。

基本的に▼信仰養成部▼福音化推進部▼教会奉仕者等養成部の3つの部にまとめられ、各部のもとではそれぞれの役割を担う委員会や団体が属することになる（上記の表）。



教区諸活動部門

教会奉仕者等養成部		福音化推進部		信仰養成部	
担当部	委員会	担当部	委員会	担当部	委員会
・祭儀奉仕者養成担当部（仮称） ・司祭生涯学習担当部（仮称） ・終身助祭養成担当部（仮称）	・召命促進委員会 ・神学院運営委員会	・家庭福音化担当部 ・社会福祉担当部	・広報委員会 ・エキュメニズム・諸宗教委員会 ・社会福音化委員会	・クルシリヨ担当部	・信仰教育委員会 ・生涯養成委員会 ・青少年委員会 ・典礼委員会

教区公認・任意の活動組織

司祭団 マラソン大会 （福江）

司祭と信徒の交流のため毎年1月最終火曜日に福江島で開催される「司祭団マラソン大会」が今年も1月29日、堂崎教会から福江教会までの約9キロで行われ、長崎教区内と高松・広島各教区からの司祭総勢39人と信徒28人が参加した。

今年は「マラソンの部」と浦頭教会からの「ハーフの部」、そして「駅伝の部」があった。駅伝では司祭団連合、浦頭教会シメオン・アンナの会、堂崎教会100周年記念チーム、聖マリア病院、福江教会エクレジアの5チームが参加した。沿道では福江・浦頭各教会の信徒、シスター方、聖マリア保育園と平和のばら保育園の園児たちがランナーに声援を送った。

競技終了後は下五島地区連合婦人会の皆さんの手料理に舌鼓を打ち、分かち合った。

今回高松・広島の司祭が参加された。来年はより多くの全国の司祭たちにも参加してもらいたいと願いつつ散会した。結果は次の通り。

〈マラソンの部〉優勝　浅田照明師（桐）、2位　谷脇誠一郎師（浦上）、3位　松永正勝師（土井ノ浦）〈駅伝の部〉優勝　聖マリア病院

司祭銀祝

マテオ　山田　聡神父

1957年2月21日、長崎市生まれ。浦上教会出身。83年3月18日、浦上教会で司祭叙階。同年大浦教会助任、85年浦上助任、88年飽の浦助任、89年浜脇主任、95年西木場主任、99年サバティカル、01年浅子主任、07年から仲知教会主任を務める。

小共同体づくりを紹介 ―平戸地区

1月20日、平戸市で開かれた「平戸地区評議会の集い」にあわせ小共同体づくりの研修会が行われ、小教区評議会役員ら約120人が学んだ。

教区小共同体推進室事務局の長野宏樹氏が「セブンステップ（7段階法）」によるみことばの分かち合いのポイントを説明、その後、中島誠志師（生月・山田教会主任）から小教区における体験の紹介があった。

「みことばの分かち合い」は、長崎教区が目指す「参加する、交わる、宣教する教会」を実現する有力な方法。日々の生活課題をみことばに照らして振り返ることで信仰と生活の一致をはかることができる手段として「福音化」推進のために期待されている。

教区では2001年から小共同体づくりを推進。入門講座などを定期的にもうけ、紹介・指導を続けている。今年の講座は4月15日から7月1日まで。

26聖人殉教記念ミサ
「真の勇気」に生きた殉教者

2月3日午後2時、今年の日本26聖人殉教記念ミサは天候に振り回され、雨天時の会場の中町教会で行われた。ミサは髙見三明長崎大司教と、47人の司祭によってささげられ、約1500人の参列者が集まった。

今年の殉教記念ミサの説教はイエズス会の川村信三神父（写真）が務めた。説教から3つ要点を上げる。

❶当時「命を懸けてでも証ししたい信仰」を示す人々が実在した。私たち一人ひとりの信仰の「質」を見直す意味でも、殉教者の信仰の証しを思い起こすことは重大な意味を持っている。

❷新渡戸稲造の著書「武士道」から、武士に最も大切な「勇気」が、殉教者の中に見られる。武士道における真の勇気とは、恐れるべきものと恐れるべからざるものとを識別し、正しきことのために、命を懸けることである。殉教者たちの「真の勇気」に、迫害者たちですら、その人間としての真価に心打たれた。

❸殉教者を突き動かした原動力は、「自力」の努力ではなく、ひたすら神に頼むこと、神への信頼であった。神の恵みにより頼むこの大切さを、私たちの祖先はっきりと知っていた。それはひとことで言えば「へりくだり」である。殉教とは、「へりくだり」のゆえに、人間となり受難を受けた神の子イエスに重なる道である。

3つの要点は、188殉教者列福の現代的な意義にも通じる。11月24日の列福式に向けて、ミサに参加した全信者は今年の説教から大きな力を得ることができた。

もっと知りたい日本の殉教史
第3回　殉教の精神（その1）

長崎純心大学学長　片岡千鶴子　修道女

「こんなに大勢の殉教者が本当に殉教の意味が分かって殉教したのか」という疑問は、現在も根強いものがあり、その理由についてさまざまな意見があります。代表的なものを2つ挙げてみます。1つは迫害によって引き起こされた熱狂的な信仰心の高揚の中で、集団心理的に家ぐるみ、村ぐるみで仕方なしに死んでいったというものです。しかし、集団心理で片付けられない殉教者自身の言葉があります。188殉教者の中の小笠原玄也一家は子供9人ともに家族全員が殉教しますが、次女クリは遺書に、母みやの信仰熱心が一家を死に至らせたと叔父たちが母を責めているが、それは事情を知らないからであって、私たちは自ら望んで命をささげる決意をしていると記しています。

もう1つは殉教を日本の武士道の精神に基づくとする解釈です。主君のために身命を惜しまない武士道の精神で、殉教者は最高の主君であるキリストに喜んで命をささげることができたと考えるものです。しかし、同時に武士道は「名は末代」と名誉を重んじます。ところが、殉教者は十字架上のキリストへの愛のために名誉を捨て恥辱を喜んで受けています。先のクリの父小笠原玄也は主君細川忠興の縁につながる重臣ですが、武士としての名誉も地位も財産もなげうって、信仰のために極貧と恥辱の生活を選びとります。これは武士道の精神だけでは説明できないものです。殉教とは何か。次回はこのことをテーマに考えます。

司祭研修会
コミュニケーションの必要性を確認

2月12日午後から13日午前にかけて、司祭研修会が大司教館で行われた。参加したのは教区内の司祭約100人。長崎教区では司祭の生涯養成と直面する問題の指針を得るため、年2回の研修を行っている。今回は「殉教の現代的意義」。

【1日目】大司教は、殉教の現代的意義についてと長崎教区の現状分析と問題点という2つの柱で講話を行った。講話を受けて、地区ごとに分団会を設け、司祭同士の本音の意見が交わされた。その中で、司教と司祭団、本部事務局が一致して長崎教区に奉仕するために何が必要か、信仰を失ってはいなくても、信徒の足が教会に向かないとか、社会に衝撃を与える事件も起こっている現状をどう乗り越えていけるか、率直に話し合った。

全体会の中で、司祭団と司教、教区本部事務局にはより緊密なコミュニケーションが必要であると確認した。「聞いているつもり」ではなく、真剣に、率直に耳を傾けなければ現状を打開できないとの危機感も伝わる全体会だった。

この日の終わりには、東京と福岡にある大神学院の「統合」に向けた準備状況が報告された。2月の臨時司教総会で最終的な方向が決まることになる。

【2日目】列福式を実りあるものとするための具体的な準備について話し合った。はじめに列福式への準備状況（日時、場所、人数、標語、ロゴ、予算）が報告され、盛り上げていくために小教区で可能なこと、実行委員会への要請などを全体会で各地区代表が発表した。最後に司教と全司祭でミサをささげ、より誠実に神の民へ奉仕するようにとの派遣を受けて研修会を終えた。

ほしかげ

月初めの金曜日（初金曜日）に小教区の病人を見舞っている。今月、敬けんな女性の信仰心に触れることができた。彼女は若いころ、山を一つ越えた向こうにある畑に、肥やし（肥料）を担いで行き、野菜を作っていたという。山を越えて行くからには、一度でたくさんの肥やしを運ぶ必要がある。上りは大変でしょうと声をかけたら、むしろ下りのほうが危険を伴い、大変なのだと教えられた▼「イエスさまがカルワリオまで生木を担いで、わたしたちの罪のために上ってくださったことを思えば、何ともなかさ」。彼女は笑顔で当時の様子を語ってくれた。イエスは受難の金曜日に十字架を担い、カルワリオの丘を上っていった。イエスは苦しみもがきながら十字架の道を歩み、「成し遂げられた」（ヨハネ19・30）との言葉を残して救いのわざを完成したと思っていた▼本当にイエスは苦しい苦しいと叫びながら最期を迎えたのだろうかと考えさせられた。全人類の苦しみを思う時、この十字架の傷はたいしたことではないと、苦しみを乗り越えたのかも知れないと思った▼信仰心はさまざまな形で現れる。長崎の信仰だけがすべてとは思わない。全国のキリスト者の信仰を、カトリック新聞を購読することで味わってみてはいかがだろうか。カトリック新聞は創刊85周年を迎えた。小教区主任司祭の「あと一押し」を期待したい。

ふるさと園

▼イエズス会立山修道院お知らせ　●祈りの一日　①3月13日(木)　②3月24日(月)　9時50分～15時半　●ともに祈る日々　3月19日(水)～23日(日)　初日17時～最終日15時　TEL095(821)4577

▼信徒発見ミサ　3月17日(月)　19時　大浦天主堂

▼聖香油ミサ　3月18日(火)　10時半　浦上教会

▼長崎の教会群とキリスト教関連遺産シンポジウム　3月25日(火)　19時　大浦天主堂　申込先【往復はがきにて3月12日消印有効】〒850-0035 長崎市元船町17-1　ながさき地域政策研究所　シンポジウム係

香典返しお礼とご報告

長崎大司教区
●江口俊雄様（桐）
故ドミニカ江口タキ様

長崎カトリック神学院
●平キミ様（神ノ島）
故セバスチアノ平定男様
●濵﨑利晴様（出津）
故アグネス濵﨑エミ様
●明松君子様（飽の浦）
故ミカエル明松次雄様
●川上喜美子様（善長谷）
故幼きイエスのテレジア
長谷川マキ様

右の方々から神学生養成などのために、香典返しに代えてご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。

砕石・栗石・港湾用捨石一式生産販売
たつみ産業株式会社
西田商事株式会社
代表取締役 ミカエル 西田 寛己
本社 〒857-1166 佐世保市木風町1468番地
TEL (0956) 31－8268

タンスの中身は入れたまま 責任ある安全運送!!
（見積り無料・荷造り発送も致します）
貨物保険有り
・一般引越 ・小荷物
・荒ゴミ捨て ・遠距離
・学生引越 ・ピアノ運搬
24時間営業・年中無休
受付時間 7：00～22：00
水浦運送
シモン 水浦幹雄
長崎市上野町12－3
TEL(095)代847－7151
844－1420

永井 隆 生誕100年記念　〈入場無料〉
グレゴリー・ダゴスティーノ パイプオルガン コンサート
【特別講演】片岡 瑠美子 氏 ―演題未定―
（長崎純心大学教授）
平成20年5月1日(木) 午後3時より予定
カトリック浦上教会
※当日は隆命日のため、追悼ミサも予定しています。
詳細は下記までお問い合わせください。
平和灯（へいわとう） 5月1日（木）午後7時～ 永井隆記念館前庭（悪天候中止）
【お問い合わせ先】
永井 隆 生誕100年記念事業実行委員会
〒852-8113 長崎市上野町22-6 永井隆記念館内
TEL/FAX：095-844-3496 e-mail：seitan@nagai100.jp

教会の鐘、モニュメント、装飾品、土産品

青銅製 長崎の鐘
㈱渕製作所 長崎市小江町1987
ミカエル 岩永正高 TEL095-861-4211

マイホームの美容と健康に！
(有)山川㊥塗装
有限責任中間法人 全国住宅火災防止協会
長崎県建物営繕工事業協同組合理事
代表取締役 ペトロ 山川 進
佐世保市原分町1715-5
TEL(0956)49-3330 FAX(0956)49-8729

主の平安
カトリック式葬祭・飾付一式
(有) 栄光式典社
代表取締役 ヨハネ 西村勇二
長崎市辻町7-18 TEL(095)844-4011
24時間営業 FAX(095)843-9896

交通誘導警備 常駐警備 イベント警備
(有)小田警備保障
警備員募集！
電話 095-856-6524 FAX 095-856-6523
長崎市横尾3丁目31-15
代表取締役 テレジア 小田寿美子
専務取締役 パウロ 小田 睦

列福式典会場の肖像画制作者に
長崎の三牧さん選ばれる

ペトロ岐部と187殉教者の列福式典会場（11月24日、長崎市松山町、長崎県営野球場）に掲げる福者肖像画の制作者が決まった。制作者はカトリック美術協会員でもある長崎市居住の三牧樺ず子さん（長崎・さくらの里聖家族教会所属）で列福式準備委員会は全国の画家7人に列福式典会場の肖像画下絵の作成について応募要領を添え依頼していた。

列福式準備委員会（現実行委員会）は、高見大司教を座長とする肖像画選定部会で各画家から寄せられた下絵作品を慎重に審査し、中でもデッサン力、立体感、構図的にもバランスがとれていた三牧さんが選ばれ、審査委員の意見、要望も伝えられた。

三牧さんは現在、選定部会の意見など取り入れ作品の制作に取り組んでいる。作品は50F号（縦115・6㌢×横91・3㌢）とし、会場には原画を拡大して掲げる。

大司教区の幼稚園協会
ソウルで園長研修会

列福式を前に韓国の殉教地を知ろうと、大司教区幼稚園協会（代表・七田明子修道女）の園長研修会が1月13日から15日までの3日間、韓国で行われ、13園から理事長1人を含む14人が参加した。

研修団はソウル市内を中心にセナムト、切頭山、明洞教会などを巡礼。ソウル市の郊外にある金アンドレアの墓地があるミリネでは殉教者に思いをはせミサをささげた。

手・下垣真希さんが、平和を祈り続けた博士の思いを伝えたいと書いた作品「わが心の歌 長崎の鐘」を歌い、詩と歌声に会場は感動に包まれた。

博士とゆかりある学校で、茅乃さんの母校でもある純心中・高等学校の佐藤洋子校長は、「互いに相手を思う父子の心が伝わってきました。恒久平和を伝えていかなければと思います」と感想を話した。また、博士の孫で市永井隆記念館の永井徳三郎館長は、博士の精神を受け継ぐことについて、「今まで茅乃が努力してきた分を引き継ぐ形でやっていければ」、あらためて身の引き締まる思いがします」と語った。

純心学園で講演する茅乃さん（昨年5月）

茅乃さんは2日肝細胞がんのため大阪府内の病院で死去。葬儀・告別式は5日、枚方市カトリック枚方教会で行われた。

永井 隆 生誕100年
「わが心の歌 長崎の鐘」ひびく

2月3日、長崎市平和会館で「永井隆生誕100年記念式典」（同記念事業実行委員会主催）が開かれ、約650人が集まった。

はじめに、前日2日に亡くなった永井隆博士の次女筒井茅乃さんを偲び黙とう。この後、叔父が博士宅に下宿して長崎医大に通い、原爆の犠牲になったというソプラノ歌手・下垣真希さんが、平和を祈り続けた博士の思いを伝えたいと書いた作品「わが心の歌 長崎の鐘」を歌い、詩と歌声に会場は感動に包まれた。

博士とゆかりある学校で、茅乃さんの母校でもある純心中・高等学校の佐藤洋子校長は、「互いに相手を思う父子の心が伝わってきました。恒久平和を伝えていかなければと思います」と感想を話した。また、博士の孫で市永井隆記念館の永井徳三郎館長は、博士の精神を受け継ぐことについて、「今まで茅乃が努力してきた分を引き継ぐ形でやっていければ」、あらためて身の引き締まる思いがします」と語った。

茅乃さんは2日肝細胞がんのため大阪府内の病院で死去。葬儀・告別式は5日、枚方市カトリック枚方教会で行われた。

みことばにふれて 41
長与教会学校スタッフ

カット
お告げの
マリア修道会
中浜斉子

四旬節も半ばを過ぎました。主のご受難を思い浮かべます。2人の犯罪人の間に十字架につけられたイエスさまは、ご自分を苦しめる人々のために御父に願いました。

「父よ、この人たちをゆるしてください。自分が何をしているのか知らないのです。」（ルカ23章34節）

使徒たちの教会の時代の、最初の殉教者ステファノも、人々が石を投げつけている間、ひざまずいて、「主よ、この人たちの罪をゆるしてください」と祈っていました。

また、日本26聖人のトマス小崎（14歳）は、「母への手紙」の中で「人々からどのようなことを言われても忍耐し、大きな愛をもつようにしてください」とはげましています。

近く列福される長崎県生月（いきつき）のガスパル西玄可（にしげんか）も、いよいよ捕らえられ、処刑されるとき、役人たちに、「ご自分を責めないでください。わたしはあなたたちにうらみなどありません」と言い、彼らをいたわっていました。

このように殉教者たちは、イエスさまにならって、自分たちを迫害する人をゆるしてきました。

しかし、今、世界はどうでしょう。日本は、いや、この長崎は。そしてこのわたしは。ゆるしが忘れられていませんか。いやなことをされると、しかえす。そのくり返しではありませんか。

この世には完全な人はいないのですから、互いに忍びあい、いましめ合い、責めるべきことがあっても、ゆるし合っていかねばなりません。

ゆるしがないところに、平和はありません。皆が仲良く平和に生きていくために一番大切なものは、イエスさまが示された「ゆるしの心」です。

今は四旬節、特に悔い改めの時です。教会には、ゆるしの秘跡があります。ゆるしの秘跡にあずかって、憐れみ深い神さまに出会ったわたしたちは、さらに、互いにゆるし合うことによって、神さまのゆるしを広げていかなければならないのです。

（山中 寛）

前教皇 ポーランド紙幣に
27年前の思い出よみがえる

ポーランドの友人から長崎市内居住の信徒に、前教皇が紙幣に印刷されたポーランド共和国銀行発行の50ピィンジェション・ズォティ＝写真＝が送られてきた。日本円で約2000円にあたる。

前教皇の長崎入りは1981年2月25日、「猛吹雪の中での27年前の野外ミサを懐かしく思い出します」と信徒は紙幣を家庭祭壇に飾っている。

人

平和の響きを造る
岩永正高さん（73）

長崎の教会群を世界遺産に――という声に後押しされ『長崎の鐘』の評価が高い。観光記念品の鐘は青銅製で長崎県を訪れる海外、国内の来賓に。公共施設にはモニュメントとして建立されている。製作の原型は原爆で崩壊した浦上天主堂のアンゼラスの鐘。

「長崎の鐘」のデビューは1950年、被爆の余韻をひく長崎に何か考えたいと、郷土史家・故片岡弥吉氏（現長崎純心大学・片岡千鶴子学長実父）に相談、その助言が、「長崎の鐘」を生み出す。

長崎市小江町の工場では1200度に溶解されたブロンズが鋳型に流し込まれ、工芸品の鐘が完成する。「商品化までに一番悩んできたのは工芸品、モニュメントともに鐘をどのように響かせるか、長崎県立工業試験場の協力を得て、人の心に『平和』をもたらすやさしい音色をつくり出すことができた」と話している。

教会の鐘は浦上、長与教会など。モニュメントは長崎の平和公園、広島、北九州など国内の他、1987年にはソ連邦レニングラード、中国・瀋陽、日米開戦の地・米国ホノルルなど、被爆地で造られた『長崎の鐘』は過去の不幸を乗り越え、平和の音色を響かせている。

最近では長崎・城山教会からかつて長崎教区信徒と姉妹協定を結んだ韓国ソウル市の「長崎の鐘の会」に、工芸品の鐘が贈られ喜ばれた。同会は会員の集会に鐘を鳴らし聖地・長崎への思いを強くしているという。「今日も各地で鐘が鳴り響いているかと思うと、造る手にも力が入ります」。

長崎県西彼杵郡長与町居住。長与教会所属。溯製作所代表。

長崎教区
活動する海外支援の3団体
奨学金で「司祭叙階」の喜びも――

長崎教区管内に海外支援する3団体があり、いずれも現地住民に高く評価され、司祭叙階の喜びも伝わってくる。

一粒の麦の会

長崎市内中心の会員がフィリピンの若者を対象にした奨学金支援を続けており、今年26年目に入った。

同会が社会人として送り出した学生の数は、延べ68人にのぼり、うち2人は司祭叙階し、司牧活動に入っている。

今年の支援学生は大学生9人、高校生、神学生各1人、合わせて11人。奨学生はパナイ島、ルソン島、ミンダナオ島など広範囲にまたがり、選考、送金などは現地の愛徳カルメル修道会の協力を得ている。昨年は助祭叙階式に会員が出席、喜びを分かち合った。

代表者は林田健治氏。

（写真は助祭叙階者と支援者）

ハイチ里親運動

貧しい子供たちの里親運動――、長崎・愛宕教会を中心に毎年募金活動を続けている。

援助先はハイチ共和国・カパイチエン市のレデンプトリスチン女子修道会を窓口に、現地で教育活動に従事している「聖ヨゼフ・センバリエ修道会」と「ドミニコ修道会」に配分するかたちで、困窮家庭の小・中学生、保育園、養護施設など学費、給食費として援助している。

ハイチ共和国には1976年、愛宕のレデンプトリスチン女子修道会から修道女9人が派遣され、小教区の支援は32年目に入る。代表者濵口長一氏。（写真修道女）は助祭になった左端ラボ・クリスト師と長崎から派遣された飯村美紀子

シナピス会

佐世保地区を中心とした会員は昨年8月、1週間の予定で、会発足「15周年」を記念して支援地、フィリピン・ネグロス島バコロド市と首都マニラなど訪問、現地では奨学生、保護者との交流会に臨んだ。参加者は17～81歳までの支援会員総勢17人。

現地では長崎教区福祉委員長・下口勲師とマニラで合流、これまで会員が支援してきた教会、幼稚園、自立農家の施設など積極的に回り、支援者自身の目で見て、肌で感じ、関係者との交流（写真）を深めて帰国した。代表者廣田義雄氏は、20周年へ向けての会員増強を願っている。

平和への想いを新たに
音楽と講演II

長崎大司教区（宣教委員会・正義と平和推進部会）は、2月10日長崎ブリックホールで教皇の「世界平和の日メッセージ」を解説する講演会を開催。今年はメッセージ開始40周年、解説する講演会は6回目。今年が生誕100周年となる永井隆博士の生きる姿を例として、平和の尊さを伝える意義深い感動の2時間だった。

初演「永井隆のロザリオ」

山内師

【第1部音楽】永井隆の著書「長詩 長崎の鐘」「長崎医大原子爆弾救護報告」からの引用と、「ロザリオの祈り～苦しみの神秘～」によって構成されたテキストによる《永井隆のロザリオ》を初演（作曲・指揮＝小畑郁男、合唱＝お告げのマリア修道会・純心聖母会修練者、他）。

【第2部講演】山内清海師（長崎教区司祭・長崎純心大学教授）が、平和への想いを新たに「平和はまず『家庭内の愛』を出発点とし世界に広がる」という教皇の平和メッセージを解説し、参加者に感銘を与えた。

バスチャンと茂重（もじゅう） 偲（しの）び
雨中の巡礼（樫山教会）

1月20日、今年も樫山字架印の椿、4つの予言などで知られる日本人伝道師バスチャンの隠れ家者聖セバスチアノの祝日を記念するミサと巡礼があった。茂重が預かった聖物を隠したところでもある。

巡礼は旧佐賀藩深堀領の赤岳のふもとにある皇大神宮前から殉教者ペトロ茂重の墓までの道のり。皇大神宮は禁教時代初期・バスチャン暦や十字架印の椿、4つの予言などで知られる日本人伝道師バスチャンの隠れ家者聖セバスチアノの祝日を記念するミサと巡礼があった。茂重が預かった聖物を隠したところでもある。

大村藩浦上信徒たちにとって赤岳は、岩屋山に登って参詣するほどの聖地だった。浦上三番崩れのとき、平・浜口・長与道の信徒たちは、メダイやご像を茂重に預けたが、あまりにも過酷な拷問に耐えきれずすべてを白状した。しかし、茂重は最後までこれらを守り通し、3年以上も続く拷問の末、深堀牢で殉教している。

巡礼のこの日、今年初の寒さの中、靴底からしみ込んでくる雨水、風の冷たさは先祖たちを偲ぶための小さなよすがとして神さまが与えてくださった〝恵みの天気〟と巡礼を続行した。樫山教会へ移動しての記念ミサでは「茂重をはじめ先祖たちが命を懸けて守り伝えてくれた信仰を次世代に伝えていくことができますように――」と共同祈願、巡礼者一同の心と願いをささげた。（円内の写真は茂重の墓碑）

長崎証言の会・代表委員
廣瀬氏に韓日平和功労賞

本年度の「韓日平和功労賞」に長崎の証言の会代表委員・廣瀬方人（まさひと）氏（77、城山教会所属）が選ばれ、2月17日長崎県教育文化会館で授賞式があった。

廣瀬氏は日韓の長い交流の歴史において長崎と韓国、とくに釜山市の被爆者訴訟の支援、昨年は謝罪と友好、そして平和を願う碑文を刻んだ石を引き長崎から広島、韓国では釜山―板門店を縦断するなど韓日平和交流の先頭に立った。

「韓日平和功労賞」は、韓国の原爆被害者協会釜山支部と長崎県被爆二世教職員の会で委員会を構成し選考している。元長崎市長本島等氏も受賞者の1人。

2008年度　カトリック長崎大司教区生涯養成委員会主催　聖書講座・信仰養成講座のご案内

◇聖書講座　木曜日　午後7時～8時30分　◇信仰養成講座　土曜日　午後7時～8時30分　○場所：長崎カトリックセンター2階講堂（公開聖書講座はホール）
○申込期間：2008年3月15日～4月5日　○申込先：〒852－8113　長崎市上野町10－34 カトリックセンター内 生涯養成委員会　電話 095－841－7731　FAX 095－841－7732
＊申込は電話、FAX、郵送で。詳細はその後説明。＊留守電対応の時は電話番号と氏名を残してください。＊科目聴講もできます。1科目（1時間半）千円です。＊駐車場はカトリック長崎大司教館へ。

聖書講座　テーマ「マルコによる福音」

日　程	科　目	講　師
4/17	マルコ福音書の概要	髙見三明大司教
4/24、5/1	第1章	川原昭如師
5/8、5/15	第2章、第3章	熊谷裕司師
5/22、6/5	第4章、第5章	岩本繁幸師
6/12	公開講座：福音書の中での旧約聖書の役割	髙見三明大司教
6/26、7/3	第6章、第7章	山村憲一師
9/11、9/18	第8章、第9章	遠山　満師
9/25、10/2	第10章、第11章	山野聖嗣師
10/9	第12章	松田聡史師
10/16	公開講座：共観福音書におけるマルコ福音書の位置	江川　憲師
10/23、11/6	第13章、第14章	平本義和師
11/13、11/20	第15章、第16章	萩原　劭師

信仰養成講座　テキスト「カトリック教会の教え」（各自で準備）

日　程	科　目	講　師
4/12、4/19	いやしをもたらす秘跡	盛　克志師
4/26、5/10	奉仕のための秘跡	中村　満師
5/17、5/24	秘跡以外の典礼	嘉松宏樹師
6/7、6/14	信徒の典礼奉仕職	山口竜太郎師
6/21、6/28	救いへの招き	山田良秋師
7/5、7/12	救いへの道	中村倫明師
9/5	救いの恵み	尾高修一師
9/20	信教の自由と宣教	
9/27	生命の尊重	山内　実師
10/4	性と結婚	
10/11、10/18	社会的人間	阿野武仁師
10/25、11/8	基本的な祈り	盛　克志師

日　程	科　目	講　師
11/15、11/22	聖書に学ぶ祈り	髙見三明大司教
11/29	祈りの実践	Dマヌエル師
12/6	祈りの深まり	
1/10、1/17	要理教育　II	山下公輝師
1/24、2/7	要理教育実習　II	西村良男氏
2/14	求道者と共に学ぶ要理	橋本　勲師
3/1	修了式	

○聴講料：聖書講座　13,000円
信仰養成講座　16,000円

石　碑
墓地工事
写真彫刻
墓地分譲
長崎石彫
ヨゼフ　岩永　博明
☎(095) 862-2469
長崎市梁川町 6-17　岩永ビル

ハマチ・タイ養殖、アジ・イワシ加工、中型旋網
エテルナ・ワコー（株）
代表取締役　ミカエル　溝口美義
〒858－0926　佐世保市大潟町586
TEL (0956)47－4380

教会バンコ・祭壇・朗読台・家庭祭壇
浜口木工所
ヨハネ　浜口知博
〒857-0032　佐世保市宮田町7－7
☎（0956）23－1867

雲仙の旅情やさしいおもてなし
殉教者の誉れの地
島原半島の巡礼ご宿泊にどうぞご利用下さいませ。
雲仙　有明（ゆうめい）ホテル
代表取締役　アントニオ　栗原　盾夫
女将　ルチア　栗原トシエ
TEL 0957-73-3206　FAX 0957-73-2254

白蟻調査無料・駆除予防工事5ケ年保証付
白蟻防除施工士
大田白蟻研究所
代表者　マリア　大島睦子
（〒850-0811）長崎市矢の平1丁目14番15号
☎長崎 095－822－8436
FAX 095－822－8436

主の平安
株式会社 五島式典社（斎場）五島中央会館
代表取締役　ヨゼフ　浦　昭
五島市上大津町1385番地1　TEL（0959）74－5551
24時間営業　FAX（0959）74－5552

電気温水器　電気設備・エアコン設備
エコキュート　何でも、お任せください
太陽光発電
配線工事
点検修理
オール電化パートナー店
有限会社 オールウェイズ
0120-33-1114
長崎市晴海台町2-14
ヨゼフ 中ノ瀬　淳一

車イスでお墓参り可　祈りの丘
長崎駅より車15分、小江原車庫前バス停より徒歩3分
夢が丘ニュータウン県道向かい、車50台以上
長崎大理石　（TEL）095-839-0374
経営管理者　（TEL）095-839-1008
祭壇前、規格墓碑一切（即納骨可）210万円